

令和元年度「英語基礎力強化プログラム」の実施と評価

教育支援・国際交流推進機構教育センター准教授

こばやし まさひろ
小林 昌博

教育支援・国際交流推進機構教育センター助教

たきなみ わかこ
滝波 稚子

教育支援・国際交流推進機構教育センター非常勤講師

たけうち ひとみ
竹内 ひとみ

1. はじめに

例年本学では「英語基礎力強化プログラム」(TOEIC 強化コース)を後期に開講し、受講生の英語力と TOEIC スコアの向上を支援する取り組みを実施している。本稿では、本プログラムの概略と今年度新規に実施した取り組みを報告し、プログラム開始時のプレテストと終了時のポストテストのスコアを比較することで学生のスコアの伸びを評価する。また、担当講師によるフィードバックや学生の意見を踏まえて課題と改善点を概観し、今後のプログラム向上に関する方向性を示す。

2. 令和元年度本プログラムの概略

教育センター外国語部門では、「国際的なコミュニケーションのための英語 (English for International Communication)」能力の育成を目指すプログラムに基づいて共通教育の英語の授業を運営・実施している。カリキュラムにおける各コースは、学生が将来的に活躍するグローバル社会を見据えて4技能の育成を目的として設計されている。一方で、本学でも実施している TOEIC Listening and Reading Test (TOEIC IP テスト) は4技能を測定するためのテストではないが、しかし同時に就職時や職場における昇進など、様々な機会に TOEIC スコアを要求されることが多いため、本学では「英語基礎力強化プログラム」を開講し、TOEIC テストの目標スコアをクリアするためのトレーニングの機会を提供している。また、4技能育成に基づく正規のカリキュラムにプラスアルファする形で TOEIC スコアの向上を目的とする本プログラムを位置づけることにより、学生の英語運用能力の育成と英語学習の動機付けのさらなる手助けとなりうると考える (小林 & Sargent 2011)。

本年度も、昨年度までと同様に学期の最初の週に履修を希望する学生が自主的に履修申請と登録をする形式をとっている。開講クラスはこれまでとは異なり、中級レベルのクラスを2クラス開講することとした(火曜と水曜)。昨年度までは上級クラスも開講していたのだが、例年の履修希望学生のレベルと上級クラスの受講者数を考慮してのこのような形式に変更するに至った。2クラスとも本学の共通教育の英語非常勤講師である竹内が担当した。受講生は週1回、希望する曜日にクラスに参加して合計で14回の授業を履修する。また、正規の授業の多くが終了した5限目に開講することで多くの学生を受け入

れる体制を整えた。出席に関しては、同内容の授業を週2回実施するため、どちらか都合のよい曜日に参加すれば出席とした。テキストは、Oxford出版の「Tactics for the TOEIC Test - Listening and Reading Test Introductory Course」を使用した。

本年度は新しい取り組みとして、アルク教育社が提供する e-learning 教材 (ALC NetAcademy NEXT の TOEIC テストコース) のアカウントを受講生に付与して自学自習を支援した。なお、添付資料1のようなスケジュール表を作成して受講生に配布し、教室内の演習に加えて毎週自主的に e-learning 教材からテスト対策ドリルの中の2ユニット分を選び課題として取り組ませた。さらに2~3週間に1度、本スケジュール表を担当講師に提出させて進捗状況をチェックすると同時に継続的な教室外の自学自習の取り組みを促した。添付資料1にあるように、初回の授業ではオリエンテーション (本プログラムの趣旨や e-learning 教材の説明、プレテストとポストテストの説明) を実施した。利用した TOEIC テストコース e-learning 教材には通常の TOEIC テストを60分に圧縮したハーフテストが6回分収録されており、2回目の授業ではその一回分を本プログラム履修前の英語力を診断するためのプレテストとして使用した。また、最後の14回目の授業で別のハーフテストをポストテストとして利用した。

3. プレテスト・ポストテストに基づく分析

前節で述べた e-learning 教材を用いて実施したプレテストとポストテストの結果について簡潔に報告する。受講登録者のうちの希望者55人に対してアカウントの付与が行われ、うち53人がプレテストを受験し24人がポストテストを受験した。ちなみにポストテスト受験時にPCを持参しなかった、あるいは持参したPCの調子が悪かったなどの理由から、代わりにテキストに付属した模擬試験を受験した受講生がいたが、今回の分析からは除外した。今回採用したテストは実際の試験時間の半分の60分の形式で100点満点のスコアスケールであった。図1がその結果である。プレテストの平均点は45.83点 (SD=9.85, SE=2.01) で、ポストテストの平均点は47.42点 (SD=9.22, SE=1.88) であった。平均点の上昇は確認されたが、欠損値がある状態の対応ありの t 検定を実施したところ、有意な差は認められなかった ($t(23)=-1.32, p=.199, n.s.$)。

ほとんどの学生がスコアを伸ばす一方で、10点以上スコアを落としている学生がわずかながら見られ、平均点に影響を与えていることが推測された。e-learning の学習履歴を見ると、プレテストを指定の時間に受験しておらず、時間外に受験している受講生などがその

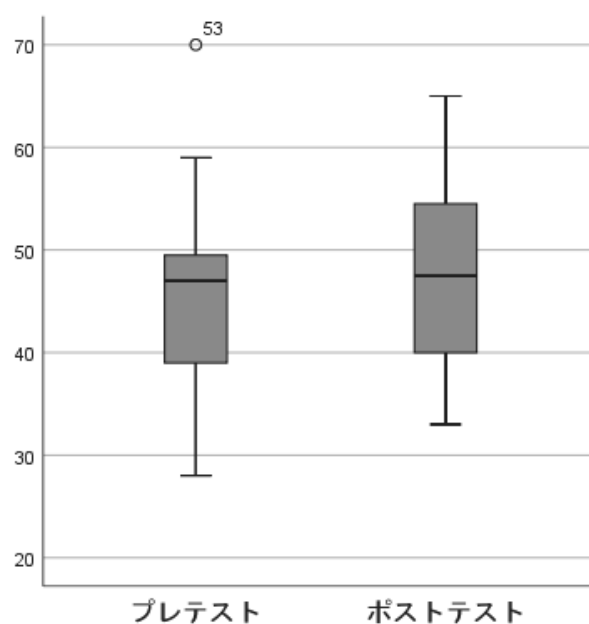


図1: プレ・ポストテストの結果

中に含まれていたもので、円滑かつ正確なテスト実施を今後の課題としたい。

4. 令和元年度実施分に関する問題点と課題

本節では、今年度の実施を踏まえた問題点や課題を挙げ、来年度に向けての修正点を述べる。まず良かった点として、本プログラムは自主的に受講を希望する学生のための講座であるため、概して受講生のモチベーションが高かったことがあげられる。担当講師によるとポストテスト終了後に、目標スコアに到達したことを嬉しそうに報告してきた受講生がいたとのことだった。今年度初めて導入を試みた e-learning 教材を用いた学習支援に関しては、自学教材により目標スコアを設定することができて、そのスコアに到達するために学習をすすめ、クリアすることで達成感を得ている学生も少なくないようである。また、統計的に有意な差は出なかったが、平均点が上昇したことは評価できることである。

同時にいくつかの問題点や課題もある。まず、授業の回数が進むにつれて出席率が下がることがあげられる。これは履修による単位の修得ができないことによるモチベーションの低下に起因する部分が大きいが、学期末はその他正規の授業のテストやレポート課題提出の準備などで時間がとられることも大きく影響しているようである。プログラムの実施時期をずらすことも考える必要があるかもしれないが、現実的には難しいと思われる。

プレテストとポストテストの実施体制に関しては、e-learning 教材を用いることにより実施のタイミングをある程度カスタマイズできたことは都合がよかった。授業の頻度を週 1 回にするなど授業の実施にも余裕を持たせることができた。ただ、実施については、PC の持参を失念するなどの事例が見られたので、もう少し周知の仕方などを工夫するとテストの受験がスムーズに進んだ可能性もあるので、今後修正していきたい。

5. まとめ

本稿では、令和元年度「英語基礎力強化プログラム」(TOEIC 強化コース)の実施についてテストを用いたプログラムの評価や問題点を概観した。本年度より試行をした e-learning 教材を用いた支援は受講生の評判もよく、可能であれば今後も継続が望ましいと思われる。e-learning 教材を用いてプレ・ポストテストを実施し、平均点の上昇がみられたことも評価できる。課題としては、プログラム終盤における出席率の低下、テストの実施の周知・実施方法の改善などがあげられる。今後來年度の実施に向けて議論をして修正を試みたい。

参照文献

小林昌博, Tervor Sargent. 2011. “鳥取大学 1 年生の TOEIC に対する意識調査についての報告”. 鳥取大学大学教育支援機構教育センター紀要 8 号. pp. 47-54.

添付資料 1

英語基礎力強化プログラム 課題			
学生番号： _____ 名前： _____			
受講日： 火曜日 / 水曜日			
ALC NetAcademy NEXT: TOEICテスト 500 / 600 / 730 点突破コース			
回	授業内容	課題 Stage 2 テスト対策ドリル	備考
1	オリエンテーション		e-learning教材、プレテスト、ポストテストの説明
2	プレテスト	Units _____ & _____	TOEIC®L&Rテスト模擬試験 JT03 TOEIC LISTENING AND READING TEST ハーフ サイズ模擬試験(1) 所要時間 62分
3		Units _____ & _____	
4		Units _____ & _____	
5		Units _____ & _____	課題チェック
6		Units _____ & _____	
7		Units _____ & _____	
8		Units _____ & _____	課題チェック
9		Units _____ & _____	
10		Units _____ & _____	
11		Units _____ & _____	課題チェック
12		Units _____ & _____	
13		Units _____ & _____	
14	ポストテスト		TOEIC®L&Rテスト模擬試験 JT06 TOEIC LISTENING AND READING TEST ハーフ サイズ模擬試験(4) 所要時間 62分 課題チェック (提出)